

地域安全学会総会報告

去る5月27日に2000年度地域安全学会総会が開催されました。総会出席者は39名、委任状提出者101名で総会は成立し、1999年度事業報告及び決算報告、2000年度事業計画及び予算、役員の変更等が報告・審議され了承されました。あわせて、昨年度の研究発表会の論文奨励賞の授与式が行われました。

その内容について、以下に掲載します。

1. 1999年度事業報告

地域安全学会が1999年度に実施した事業は下記のとおりである。

(1) 総会の開催

1999年度総会を下記のとおり開催し、審議・報告を行い可決された。

日 時：1999年5月29日(土) 15:45～16:15

場 所：早稲田大学理工学部 55号館N棟1階大会議室

主要議事： 1) 1998年度事業報告 4) 1999年度予算(案)

2) 1998年度決算報告 5) 役員の変更

3) 1999年度事業計画(案) 6) その他

出席者数：22名 委任状数：130名

(2) 講演会の開催

講演会を下記のとおり開催した。

日 時：1999年5月29日(土) 13:00～15:30

場 所：早稲田大学理工学部 55号館N棟1階大会議室

講 師：村上雅也 氏「1997年鹿児島県北西部地震について」

高野公男 氏「都市の防犯環境設計について」

(3) 理事会の開催

1999年度は理事会を下記のとおり開催した。

	開催年月日	出席者数	委任状数
第1回	1999年5月29日	12	7
第2回	1999年7月31日	17	4
第3回	1999年9月25日	10	6
第4回	1999年11月19日	15	7
第5回	2000年1月22日	7	9
第6回	2000年3月25日	15	7

(定足数：16名)

(4) 第9回研究発表会の開催

第9回研究発表会を下記のとおり開催した。

日 時：1999年11月19日(金)～11月21日(日)

場 所：静岡県地震防災センター

担当理事：井野盛夫、佐土原聡

発表論文数：論文集 27編・梗概集 60編

出席者数：177名

(5) 地域安全学会梗概集の刊行

第9回研究発表会の地域安全学会梗概集No.9を刊行した。

担当理事：長能正武(副会長)、高梨成子

(6) 学術委員会

・地域安全学会論文集No.1を刊行し、その論文発表を第9回研究発表会の中で行った。

・論文賞(該当無し)と論文奨励賞(3名)の選出およびメダルを発注した。

担 当：学術委員会

(7) 調査・企画委員会の活動

下記の3グループに分かれて3～5回の委員会を開催し、主テーマおよび関連する事項について研究討議を進めた。

A:「被害予測と緊急対応」(幹事：佐土原聡(横浜国大)、目黒公郎(東大))

主テーマ：デジタル情報の防災への活用(自治体アンケート調査進行中)

B:「被災者の自立と社会的支援」(幹事：村上ひとみ(山口大))

主テーマ：高齢者等災害弱者支援のための事前、応急防災対策

C:「防災体系の国際比較」(幹事：高梨成子(防災&情報研究所)、大西一嘉(神戸大))

主テーマ：日中防災法律体系の比較研究(1999年度科学技術振興調整費・小川雄二郎氏、国連地域開発センターとの合同研究)

トルコ・コジャエリ地震、台湾集集地震の報告会を合同で開催(1999年10月23日)

- (8) 会員名簿の改訂発行
 会員の入退会に伴い、1999年度会員名簿を発行した。
- (9) ニュースレターの発行
 ニュースレターを下記のとおり発行した。

発行 No.	発行年月	編集担当
No.32	1999年8月	系井川栄一(理事)
No.33	1999年11月	"
No.34	2000年3月	"

- (10) ホームページ
 掲載内容の更新と充実に努めた。
 担当理事：大西一嘉
- (11) 会員数及び年会費納入
 1999年度末(2000年3月31日)現在の会員数及び年会費納入状況は下記のとおりである。

	会 員 数	会費納入状況		
		過年度分	1999年度分	次年度分
賛助会員	4社	- - -	4社	- - -
正会員	383名	22名	310名	5名
学生会員	32名	2名	30名	- - -

2. 2000年度事業計画

地域安全学会が2000年度に計画している事業は下記のとおりである。

(1) 総会の開催

本年度総会を下記のとおり開催し、審議・報告を行う。
 日 時：2000年5月27日(土)16:00～16:30
 場 所：早稲田大学理工学部 51号館 3階 第2会議室
 主要議事：1) 1999年度事業報告 4) 2000年度予算(案)
 2) 1999年度決算報告 5) 役員改選
 3) 2000年度事業計画(案) 6) その他

(2) 講演会の開催

講演会を下記のとおり開催する。
 日 時：2000年5月27日(土)13:00～14:00
 場 所：早稲田大学理工学部 51号館 3階 第2会議室
 講 師：梶 秀樹 氏(慶應義塾大学総合政策学部教授)

(3) ミニ・シンポジウムの開催

ミニ・シンポジウムを下記のとおり開催する。
 主 催：調査・企画委員会
 日 時：2000年5月27日(土)14:10～16:00
 場 所：早稲田大学理工学部 51号館 3階 第2会議室

(4) 第10回研究発表会の開催

第10回研究発表会を下記のとおり開催する。
 日 時：2000年11月17日(金)～11月19日(日)
 場 所：静岡県地震防災センター
 担当理事：岩田孝仁、三船康道

(5) 地域安全学会梗概集の刊行

第10回研究発表会において発表される論文の梗概集を刊行する。
 地域安全学会梗概集No.10
 担当理事：長能正武、高梨成子

(6) 学術委員会

・地域安全学会論文集No.2を刊行し、その論文発表を第10回研究発表会の中で行う。
 ・第10回研究発表会の論文賞と論文奨励賞の選出を行なう。
 担 当：学術委員会

(7) 調査・企画委員会活動

下記の3グループに分かれて委員会を開催し、主テーマおよび関連する事項について研究討議を進める。
 A:「被害予測と緊急対応」(幹事：佐土原聡(横浜国大)、目黒公郎(東大))
 主テーマ：デジタル情報の防災への活用(自治体アンケート調査進行中)



左記の2000年度事業計画に基づいて、講演会・ミニシンポジウムが2000年5月27日に開催されました。参加者数は65名でした。プログラムは下記の通りです。

プログラム

- 講演会
 講 師：梶 秀樹 氏
 慶應義塾大学 教授
 演 題：「開発と防災」
- ミニシンポジウム
 ～阪神・淡路大震災から5年、
 何が変わったか、変わっていないか～
 1) 被害予測と緊急対応
 2) 被災者の自立と社会的支援
 3) 防災体系の国際比較に向けて
 司 会 小川雄二郎

- ・アンケート調査のまとめ
 - ・被害予測と緊急対応に関する勉強会の開催、最新情報の収集、資料集の作成
 - B:「被災者の自立と社会的支援」(幹事:村上ひとみ(山口大)、小坂俊吉(東京都立大))
 - 主テーマ:高齢者等災害弱者支援のための事前、応急防災対策
 - ・有珠山噴火災害における被災者支援対策の実態調査
 - ・勉強会の開催と地域住民への公開講演会の企画
 - C:「防災体系の国際比較」(幹事:高梨成子(防災&情報研究所)、大西一嘉(神戸大))
 - 主テーマ:防災法律体系の比較研究(1999年度科学技術振興調整費・小川雄二郎氏、国連地域開発センターとの合同研究の継続)
 - ・中国で「日中防災法律体系の比較研究」シンポジウム共催
 - ・「防災法律体系の比較研究」報告書の作成
- ミニ・シンポジウム「阪神・淡路大震災から5年、何が変わったか、変わっていないか」主催(2000年5月17日)
- (8)会員名簿の改訂と発行
1999年度中の会員の入退会に伴い、2000年度会員名簿を発行する。
- (9)ニュースレターの発行
ニュースレターを下記のとおり計3回発行する。
- No.35:2000年8月
No.36:2000年10月
No.37:2001年3月
担当理事:糸井川栄一
- (10)ホームページ
学会からの情報提供を行なう。
担当理事:大西一嘉

3. 2000年度地域安全学会役員

役職	氏名	所 属
会 長	熊谷 良雄	筑波大学 社会工学系
副 会 長	小川雄二郎	アジア防災センター
理 事	長能 正武	(株)竹中工務店 技術研究所 基礎研究部
理 事	塚越 功	慶応義塾大学大学院 政策メディア研究科
理 事	廣井 脩	東京大学 社会情報研究所
理 事	室崎 益輝	神戸大学 都市安全研究センター
理 事	井野 盛夫	富士常葉大学 環境防災学部
理 事	林 春男	京都大学 防災研究所附属巨大災害研究センター
理 事	糸井川栄一	建設省建築研究所
理 事	佐土原 聡	横浜国立大学大学院 工学研究科
理 事	高梨 成子	(株)防災&情報研究所
理 事	村上ひとみ	山口大学 理工学研究科
理 事	山崎 文雄	東京大学 生産技術研究所
理 事	岩田 孝仁	静岡県防災局観測調査室
理 事	大西 一嘉	神戸大学 建設学科
理 事	重川希志依	富士常葉大学 環境防災学部
理 事	中林 一樹	東京都立大学大学院 都市科学研究科
理 事	宮野 道雄	大阪市立大学 生活科学部居住環境学科
理 事	矢代 晴実	東京海上火災保険(株)リスクマネジメント業務部
理 事	吉井 博明	東京経済大学 コミュニケーション学部
理 事	三船 康道	(株)エコプラン
理 事	岡田 成幸	北海道大学大学院 工学研究科
理 事	清野 純史	京都大学 工学研究科
理 事	翠川 三郎	東京工業大学大学院 総合理工学研究科
理 事	稲葉 昇	東京消防庁 防災部 部長
理 事	丸山 浩司	自治省消防庁 防災課
理 事	合田 純一	建設省都市局 都市防災対策室
理 事	吉野 清文	建設省河川局 防災・海岸課災害対策室
理 事	岡山 和生	国土庁防災局 震災対策課
監 事	伊藤 滋	(財)都市防災研究所、アジア防災センター
監 事	村上 雅也	千葉大学
顧 問	片山 恒雄	科学技術庁防災科学技術研究所
顧 問	梶 秀樹	慶応義塾大学 総合政策学部
顧 問	高野 公男	(株)マヌ都市建築研究所
顧 問	村上 處直	横浜国立大学大学院 工学研究科
顧 問	亀田 弘行	京都大学 防災研究所
顧 問	濱田 政則	早稲田大学 理工学部

注)本ニュースレター発行時点(2000年8月)では、国土庁防災局震災対策課の理事が岡山和生氏から布村明彦氏に交替しています。

4 . 地域安全学会論文奨励賞の授与式

論文奨励賞の授与式は、講演会に引き続き、14時から総会会場で行われました。会場一杯に集まった講演会参加者が見守る中、地域安全学会としては初めての記念すべき論文奨励賞の授与式となりました。授与式は、山崎文雄学術委員長の進行で行われ、まずはじめに査読論文システムの導入と論文賞(今回は該当者なし)と論文奨励賞受賞者選出までの経緯が報告されました。つづいて3名の受賞者一人一人に対して、熊谷良雄会長から賞状が、重川希志依学術委員会副委員長から記念メダルが授与されました。昨年度より導入された査読論文システムでは、27編の論文が登載可と判定され、研究発表会での審査により、論文奨励賞の受賞者として選ばれたのは以下の3名の方たちです。

- ・ 齋藤正俊(日本電気(株))：「火災延焼からみた木造密集市街地改善プログラムの評価手法とその適用性に関する研究」
- ・ 高島正典(京都大学大学院)：「広域地震災害における復旧・復興状況の時空間的な推移 阪神・淡路大震災を事例として」
- ・ 木村玲欧(京都大学大学院)：「阪神・淡路大震災後の被災者の移動とすまいの決定に関する研究」



写真向って左から、メダル製作者の小村貴子さん、論文奨励賞受賞者の高島正典さん、齋藤正俊さん、木村玲欧さん

ここで、受賞された3名の方たちについて、指導教官からプロフィールを紹介していただくと同時に、受賞者からの一言を紹介します。

Profile

齋藤 正俊さん

〔論文指導教官から一言(筑波大学 熊谷良雄)〕

齋藤正俊氏は、筑波大学第三学群基礎工学類において構造物の非破壊検査に関する卒業研究を行なった後、修士課程の環境科学研究科に進学し、都市防災研究室に came。授業などを通じて都市防災に関する知識を身につけ、また、学類で修得したコンピューター技術をGISの利用などに結びつけ、高い評価で「修士(環境科学)」を取得しました。なお、修士論文作成に必要な火災延焼理論の理解やGISソフトの操作などは、建設省建築研究所の系井川栄一室長の的確な助言に負うところが大です。

〔受賞者から一言〕

この度は記念すべき第一回地域安全学会論文奨励賞を頂戴いたしました。言うまでもなく私一人の力で為し得たものではありません。指導教官である筑波大学社会工学系の熊谷良雄教授を始め、建設省建築研究所第六研究部の系井川栄一室長ならびに都市防災情報研究室の皆様には、幾重にも渡り貴重なご助

言・ご指導を頂きました。また、東京都都市計画局・東京消防庁防災課の関係者の皆様にも多大なるご協力を頂きました。この場をお借りいたしまして、厚く御礼を申し上げます。

高島 正典さん

〔指導教官から一言(京都大学防災研究所 林 春男)〕

高島君は現在京都大学大学院情報学研究科社会情報学専攻のD2の学生です。学部は土木の出身で、卒業論文指導教官になったのがつきあいの始まりです。彼の研究テーマは、災害による直接的な物理被害だけでなく、その後の社会活動への影響を含めた全体としての被害の定量的な把握法の開発です。奨励賞をいただいた研究は修士論文を発展させたものでした。現在は夜間の都市光を捉えるDMSPという衛星データを用いた被害推定の研究に取り組んでいます。指導教官としては、体型まで指導したといわれるのに閉口しています。

〔受賞者から一言〕

この度は、このようなすばらしい賞を頂きまして、本当に光栄です。本研究の実施に際しましては、関西電力株式会社様より、営業所別の電力消費量データを提供して頂きました。また論文提出時には、匿名の査読者の皆様より、貴重なコメントを頂きました。この場をお借りして、お礼申し上げます。ありがとうございました。これからも、より一層研究活動に励んでまいりたいと思います。

木村 玲欧さん

〔指導教官から一言(京都大学防災研究所 林 春男)〕

木村君は現在京都大学大学院情報学研究科社会情報学専攻のD1の学生です。学部は心理学の出身で、修士課程の指導教官になって以来のつきあいです。彼の研究テーマは阪神・淡路大震災からの復興過程を、無作為標本にもとづくパネル調査で明らかにすることです。現在は社会調査のデータとGISによって表現される空間属性データを組み合わせて新しい理解が得られるかの可能性を検討しています。指導教官としては、第2回目の調査の準備に入りますので、第1回の調査以上に活躍してくれることを期待しています。

〔受賞者から一言〕

素晴らしい賞をいただき、たいへん光栄に思っております。本当にありがとうございます。まだまだ多くを学ばねばならない私ですが、複雑で奥深い防災学の世界に少しでも貢献できるように、これからも頑張っていきたいと思っております。皆様のご指導・ご鞭撻をよろしくお願いいたします。最後になりましたが、温かくかつ厳しくご指導くださる私の指導教官であります京都大学防災研究所教授・林春男先生に、心からの御礼を申し上げます。

記念メダルの作者、小村貴子さんの紹介

記念メダルについては、ニュースレターNo.34にその模型の写真とデザインのモチーフを紹介していますが、ここでは、その製作に携わった作者、小村(旧姓儀賀)貴子さんについて紹介いたします。小村さんは、三重県鈴鹿市在住の新進気鋭の女流彫刻家で、日展に連続して入選するとともに、日本彫刻会会員に最も若くして選出されるなど、今後の一層の活躍が期待されている方です。彫刻作品の制作に携わる傍ら、地元の防災ボランティア活動にも携わり、その縁で、ご主人の地域安全学会会員、小村隆史氏(前防衛庁防衛研究所、現富士常葉大学)と出会われたそうです。お二人は、今年の4月に結婚されたばかりです。小村氏と平野昌氏(三重県)、三重県在住の防災ボランティアの三者が、簡易型の防災図上訓練であるDIGのノウハウを開発していますが、『DIGマニュアル』の表紙にある、家族で地図台を囲んで避難方法などを話し合っているイメージの「クレイ人形(粘土の人形)」も彼女の作品です。人物(女性像)を中心とした具象彫刻を多く制作している彫刻家为本業で、クレイ人形の作成はその傍らにやっているということ強調してほしい、とは本人の弁です。

昨年秋の地域安全学会発表会の際、貴子さんは、小村氏らからマニュアル販売の手伝いをしてほしいと静岡まで引っ張り出されましたが、その際の出会いが縁で論文賞のメダル作成を学術委員会から委託されました。貴子さんは、後世に残る作品となるよう、自分の納得いくまで幾つも粘土模型を作り、最後に今回の作品「智慧の女神アテナ・パルテノスと智慧の兜」にたどり着きました。このように、地域安全学会および防災と関係の深い芸術家に、メダルを製作していただいたことは、地域安全学会にとって大きな誇りです。今後ともこの素晴らしいメダルが、多くの会員にとって優れた査読論文を書く励みとなり、地域安全学会の発展に寄与することを期待するものです。